

## LESSON NOTES

# Advanced Audio Blog S4 #2 Top 10 Japanese Authors: Ōgai Mori

---

## CONTENTS

- 2 Kanji
- 3 Kana
- 4 Romanization
- 6 English
- 7 Vocabulary
- 8 Sample Sentences
- 9 Grammar

# 2

# KANJI

1. 森鷗外
2. 日本を代表する作家として、夏目漱石と二大巨頭を成す森鷗外。
3. 彼は医者の子に生まれ、熱心に勉学に励みました。努力を重ねた結果、わずか12歳で現在の東京大学医学部へ入学。特に、ドイツ語はドイツ人学者にドイツ語で反論して打ち負かすほど流暢だったそうです。その後、彼は軍医となりドイツへ留学します。
4. さて、あなたが人生において最も大切にしているものは何ですか。仕事や勉強でしょうか。それとも恋愛？
5. 鷗外の代表作『舞姫』は自伝的要素の強い作品です。
6. 主人公は青年エリート官僚の太田豊太郎（とよたろう）。彼は、留学先のドイツにて薄幸の踊り子・エリスと恋に落ちます。しかし、この恋愛が問題となり豊太郎は官僚の職を失うことに。友人の尽力により、帰国して社会復帰の機会を得るのですが、そのためにはエリスとは別れなければなりません。社会的地位や仕事を取るのか、それとも愛を取るのか...苦悩する豊太郎が最終的に選んだのは日本へ帰る道でした。なのに、エリスは新しい命を宿していたのです。恋人の帰国を知り、精神に異常をきたしてしまうほどショックを受ける彼女。豊太郎はさらに自責の念に苛まれることとなります。
7. 実際に、1888年に帰国した鷗外を追って来日した「エリーゼ」というドイツ女性があり、エリスのモデルとされています。
8. 作品の執筆を通じて、「何を大切に生きていくべきか」を深く見つめたであろう鷗外。漱石にしろ鷗外にしろ、「文豪」と呼ばれる故に遠い存在に感じられますが、実は私たちと同じように悩んだり苦しんだりしていたのですね。
9. ちなみに、『舞姫』は雅文体（がぶんたい）という現代の日本では使われなくなった文章で綴られているため、読みこなすのはかなり難しいでしょう。興味のある人は、まずマンガや映画から作品に触れることをオススメします。

CONT'D OVER

10. 1862年2月 島根県に生まれる
11. 1922年7月 享年60歳
12. 代表作 『舞姫』
13. 『最後の一句』
14. 『高瀬舟』

## KANA

1. もりおうがい
2. にほんを だいひょうする さっかとして、なつめそうせきとにだいきよとうを なす もりおうがい。
3. かれはいしゃのいえにうまれ、ねっしんにべんがくにはげみました。どりよくをかさねたけっか、わずか12さいでげんざいのとうきょうだいがく いがくぶへにゆうがく。とくに、ドイツごはドイツじん がくしゃにドイツごではんろんしてうちまかすほどりゆうちょうだった そうです。そのご、かれはぐんいとなりドイツへりゆうがくします。
4. さて、あなたがじんせいにおいてもっともたいせつにしているものはなんですか。しごとやべんきょう でしょうか。それともれんあい？
5. oughがいの だいひょうさく 『まいひめ』はじでんてきょうそのつよいさくひんです。

CONT'D OVER

6. しゅじんこうは せいねんエリートかんりょうのおおたとよたろう。かれは、りゅうがくさきのドイツにてはっこうのおどりこ・エリスとこいにおちます。しかし、このれんあいがもんだいとなりとよたろうはかんりょうのしよくをうしなうことに。ゆうじんのじんりよくにより、きこくしてしゃかいふっきのきかいをえるのですが、そのためにはエリスとはわかれなければなりません。しゃかいてきちいやしごとをとるのか、それともあいをとるのか...くのうするとよたろうがさいしゅうてきにえらんだのはにつぽんへかえるみちでした。なのに、エリスはあたらしいいのちをやどしていたのです。こいびとのきこくをしり、せいしんにいじょうをきたしてしまうほどショックをうけるかのじょ。とよたろうはさらにじせきのねんにさいなまれることとなります。
7. じっさいに、1888ねんにきこくしたおうがいを おってらいにちした「エリーゼ」というドイツじょせいがあり、エリスのモデルといわれています。
8. さくひんのしっぴつをつうじて、「なにをたいせつにいきていくべきか」をふかくみつめたであろうおうがい。そうせきにしろおうがいにしろ、「ぶんごう」とよばれるゆえにとおいそんざいにかんじられますが、じつはわたしたちとおなじようになやんだりくるしんだりしていたのですね。
9. ちなみに、『まいひめ』はがぶんたいというげんだいのにほんではつかわれなくなったぶんしょうでつづられているため、よみこなすのはかなりむずかしいでしょう。きょうみのあるひとは、まずマンガやえいがからさくひんにふれることをオススメします。
10. 1862ねん2がつ しまねけんにうまれる
11. 1922ねん7がつ きょうねん60さい
12. だいひょうさく 『まいひめ』
13. 『さいごのいっく』
14. 『たかせぶね』

## ROMANIZATION

CONT'D OVER

1. Mori Ōgai
2. Nihon o daihyō suru sakka to shite, Natsume Sōseki to nidaikyōtō o nasu Mori Ōgai.
3. Kare wa isha no ie ni umare, neshin ni bengaku ni hagemimashita. Doryoku o kasaneta kekka, wazuka 12-sai de genzai no Tōkyō daigaku igakubu e nyūgaku. Toku ni, Doitsugo wa Doitsujin gakusha ni Doitsugo de hanron shite uchimakasu hodo ryūchō datta sō desu. Sono go, kare wa gun'i to nari Doitsu e ryūgaku shimasu.
4. Sate, anata ga jinsei ni oite mottomo taisetsu ni shite iru mono wa nan desu ka. Shigoto ya benkyō deshō ka. Soretomo ren'ai?
5. Ōgai no daihyōsaku "Maihime" wa jidenteki yōso no tsuyoi sakuhin desu.
6. Shujinkō wa seinen erīto kanryō no Ōta Toyotarō. Kare wa, ryūgakusaki no Doitsu nite hakkō no odoriko. Erisu to koi ni ochimasu. Shikashi, kono ren'ai ga mondai to nari Toyotarō wa kanryō no shoku o ushinau koto ni. Yūjin no jinryoku ni yori, kikoku shite shakaifukki no kikai o eru no desu ga, sono tame ni wa Erisu to wa wakarenakereba narimasen. Shakaiteki chii ya shigoto o toru no ka, soretomo ai o toru no ka... Kunō suru Toyotarō ga saishūteki ni eranda no wa Nihon e kaeru michi deshita. Nanoni, Erisu wa atarashii inochi o yadoshite ita no desu. Koibito no kikoku o shiri, seishin ni ijō o kitashite shimau hodo shokku o ukeru kanojo. Toyotarō wa sarani jiseki no nen ni sainamareru koto to narimasu.
7. Jissai ni, 1888-nen ni kikoku shita Ōgai o otte rainichi shita "Erīze" to iu Ditsu josei ga ari, Erisu no moderu to iwarete imasu.
8. Sakuhin no shippitsu o tsūjite, "nani o taisetsu ni ikite iku beki ka" o fukaku mitsumeta de arō Ōgai. Sōseki ni shiro Ōgai ni shiro, "bungō" to yobareru yueni tōi sonzai ni kanjiraremasu ga, jitsu wa watashitachi to onaji yō ni nayandari kurushindari shite ita no desu ne.
9. Chinamini, "Maihime" wa gabuntai to iu gendai no Nihon de wa tsukawarenaku natta bunshō de tsuzurarete iru tame, yomikonasu no wa kanari muzukashii deshō. Kyōmi no aru hito wa, mazu manga ya eiga kara sakuhin ni fureru koto o osusume shimasu.

CONT'D OVER

10. 1862-nen 2-gatsu Shimane-ken ni umareru
11. 1922-nen 7-gatsu kyōnen 60-sai
12. daihyōsaku "Maihime"
13. "saigo no ikku"
14. "takasebune"

## ENGLISH

1. Ōgai Mori
2. Alongside Natsume Sōseki, another famous Japanese writer composes the "Big Two": Ōgai Mori.
3. Mori was born into family of doctors, and devoted himself zealously to his studies. As a result of these efforts, at just twelve years old he entered what is now known as Tokyo University's College of Medicine. Especially worthy of note is that he was apparently fluent enough in German to win arguments with German academics conducted in German! After that, he became an army doctor and went to Germany to study abroad.
4. Now, what's the thing that takes the highest precedence in your life? Is it perhaps work or study? Or is it love?
5. Ōgai's most famous work, "The Dancing Girl", is a strongly autobiographical story.
6. The protagonist, Toyotarō Ōta, is an elite young bureaucrat. In Germany, where he is studying abroad, he falls in love with a star-crossed dancing girl, Elise. But this love becomes problematic, and Toyotarō ends up losing his job because of it. Thanks to the efforts of a friend, he has the chance to return to Japan and reintegrate into society, but in order to do this, he must part from Elise.

CONT'D OVER

7. Choose social standing and the job, or on the other hand choose love... After agonizing over this, Toyotarō finally chooses to return to Japan.
8. However, Elise is carrying his child.
9. On learning of her lover returning to his country, she suffers a shock so great that it causes her to experience a nervous breakdown. It ends with Toyotarō even further tormented by his guilt.
10. In actuality, a woman called Elise did exist who followed Ōgai back to Japan after his return to the country in 1888. She is said to have been the model for Elise.
11. As Ōgai wrote this story, he must have been pondering deeply on what we must hold dear to us during our lifetime.
12. Because both Sōseki and Ōgai are called "literary legends", we think of them as being far removed from normal human beings, but in reality they both suffered and struggled just as we do.
13. Incidentally, because "The Dancing Girl" is written in a classical style of prose no longer used in modern-day Japan, I think it's probably quite difficult to read. For those who are interested, I recommend first getting to know the story via the manga or film versions.
14. February 1862 - Born in Shimane Prefecture
15. July 1922 - Died at age 60
16. Best-known works -"The Dancing Girl," "The Last Phrase," "The Boat on the Takase River"

## VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
巨頭	きょとう	kyotō	leader, magnate

励む	はげむ	hagemu	to strive, to make an effort
流暢	りゅうちょう	ryūchō	fluent
尽力	じんりょく	jinryoku	effort
社会復帰	しゃかいふっき	shakaifukki	social rehabilitation
宿す	やどす	yadosu	to carry
自責の念	じせきのねん	jiseki no nen	guilty feelings, guilty conscience
苛まれる	さいなまれる	sainamareru	to torture oneself
綴る	つづる	tsuzuru	to spell, to write out

## SAMPLE SENTENCES

<p>財界の巨頭たちが集まって会合を開いた。 <i>Zaikai no kyotō-tachi ga atsumatte kaigō o hiraita.</i></p> <p>The financial leaders gathered and held a meeting.</p>	<p>息子は、毎日勉強に励んでいる。 <i>Musuko wa mainichi bengaku ni hagende iru.</i></p> <p>My son devotes himself to studying every day.</p>
<p>彼のスペイン語は、流暢だ。 <i>Kare no supein-go wa ryūchō da.</i></p> <p>He speaks Spanish fluently.</p>	<p>この政治家は、外国人選挙権の獲得のために尽力した。 <i>Kono seijika wa gaikokujin senkyoken no tame ni jinryoku shita.</i></p> <p>This politician put forth a lot of effort to secure voting rights for foreigners.</p>
<p>私は、被害者である子ども達の社会復帰を助ける仕事をしています。 <i>Watashi wa higaisha de aru kodomo-tachi no shakaifukki oi tasukeru shigoto o shite imasu.</i></p> <p>I work helping children who are victims reintegrate back into society.</p>	<p>妻は、双子を宿している。 <i>Tsuma wa futago o yadoshite iru.</i></p> <p>My wife is carrying twins.</p>

一度の過ちから、自責の念に駆られている。  
*Ichi-do no ayamachi kara jiseki no nen ni kararete iru.*

I am riddled with guilt from a one-time mistake.

罪の意識に苛まれる。  
*Tsumi no ishiki ni sainamareru.*

I am tortured by a sense of guilt.

心に湧き上がったことを綴る。  
*Kokoro ni wakiagatta koto o tsuzuru.*

I write what comes to my mind.

## GRAMMAR

**Natsuko:** オーディオブログ、第四シーズン、第2課、森鷗外

**Yuichi:** みなさん、こんにちは。ゆういちです。

**Natsuko:** なつこです。

**Natsuko:** このレッスンでは、『森鷗外』という作家を紹介します。 **Natsuko:** じゃ、さっそく、ブログをきいてみましょう。

== Blog 本文 ==

**Natsuko:** さて、リスナーの皆さん、どうでしたか？

**Yuichi:** はい、難しい単語がまた出てきましたね。特に「がぶんたい」？ですか？これ聞いたことなかったんですけど。

**Natsuko:** 私も実は今回このブログを読んで初めて知りました。

**Yuichi:** 多分、専門用語ですかね。昔の言葉遣いで書いた文章のことみたいですね。

**Natsuko:** ブログにも書いてありますが、日本語が上級の皆さんでも、読みこなすのは結構苦労するかもしれませんね。

**Yuichi:** あー、はい、そうですね。

**Natsuko:** ゆういちさんは、この舞姫は読んだことはありますか？

**Yuichi:** はい、これも高校の時に国語の教科書で読みました。もちろん文章が長いので、全部は載っていなかったんですけども。で、話がとても面白かったので、実際に全部本で読んでみようかなと思ったんですけども、先生が結末を言ってしまったので、ちょっと読む気がなくなっていました。

**Natsuko:** うーん、残念。

**Yuichi:** はい。なつこさんはどうですか？

Natsuko:私は、この鷗外自身の書いた原作は読んだ覚えはないんですけど、話は有名な  
ので、どういうストーリーかは知っていました。

今読むとね、恋愛はある程度自由ですし、国際結婚する人も多いですし、主人公の気持  
ちはなかなかこう共感しにくいストーリーかもしれませんね。

Yuichi:好きな人がいて、でも自分の仕事のためにその人と別れる・・・ということですが  
・・・。しかも、その人は妊娠しているわけですよね・・・。

Natsuko:ま、彼女が妊娠しているってことはそのときは知らなかったみたいですね。

Yuichi:だったら、もしその主人公が彼女が妊娠してるってことを知っていたら、ど  
うなってたんでしょうね。もしかしたら、ドイツに残っていたのかもしれないね。

Natsuko:いや、でも、この主人公だったら、知ってても日本に帰ってきちゃったかもし  
れませんか。なーんて。

ただ、これは、1880年代のお話なので、今とは考えが違うんですよね。何が大切なの  
か・・・というのも当時と今とでは違ったと思うんですよ。

Yuichi:そうですね。当時は、国からお金をもらって、留学するなんていうのは大変なこ  
とでしたからね。

Natsuko:そうなんですよ。家族や、国からの期待を一身に背負っていくわけなんです  
よ。

これからの日本の未来を自分達が良くしなきゃいけない・・・という使命感もあったと  
思うんですよ。

だから、今の私たちの価値観で見れば、主人公の豊太郎はひどい男だし、エリスはかわ  
いそうな女の子だ・・・っていう風になっちゃうわけですけど、時代的なことを考えれば、  
豊太郎の行動には理解できる部分もなくはないですよ。

Yuichi:そうですね。雅文体だけじゃなくて、そういう、当時の考え方などをしっかりと  
把握していないと、作品を理解するのは難しいですね。

Natsuko:そうですね。ちなみに、森鷗外自身が、ドイツから帰国して、日本人の女性と  
結婚したそうです。

Yuichi:あ、僕聞いたことがありますよ、それ。ま、でも、子供や孫に西洋風の名前をつけて  
いたらしいですよ。

Natsuko:え？そうなんですか？

Yuichi:アンヌとか ルイとか 孫にも マックスとか ジョージとか レオ っつ  
けてみたいですよ。

Natsuko:日本人なんですよ、みんな。へー。

Yuichi:で、面白いのが、森鷗外のドイツ人のガールフレンドの名前が「エリーゼ」じゃな  
くて「アンヌ ルイーズ」だったと、言う説もあるんです。そうすると、子供の名前  
が。。。

Natsuko: アンヌとかルイとか... うわ。昔の恋人の名前を自分の子供につけちゃったんだ。

それは、ひどいですね。

Yuichi: ちょっと趣味が悪いですよ。

Natsuko: 私奥さんだったら、激怒しますね、これ。

Yuichi: そうですね。ま、この一つの説ですので、ま、本当のところは本人にはかわからないですけどね~。

Natsuko: んー、なんか私、本当のことは知りたくない気になってきました。

Yuichi: じゃ、これぐらいにしておきましょうか。

Natsuko: そうですね。それじゃ、今回はこの辺で。 Yuichi: それじゃ、また。